

投資利回り 19.2%

テマセク、運用残高 24兆円

前期

【シンガポール】谷繭子【シンガポールの政府系投資ファンドであるテマセク・ホールディングス】が7日発表した2015年3月期の投資実績は、年間の投資利回りにあたる株主総利益が19.2%と前の期の1.5%から大幅に伸びた。中国投資がけん引役となり、期末の運用残高が前の期

末を19%上回る2660億ドル（約24兆円）に増えた。

中国に強い香港の小売業、ASワトソンの25%を取得したほか、中国のチャットアプリ大手、騰訊控股（テンセント・ホールディングス）などに新規投資した。

中国への投資が全体に占める割合は前の期の25%

%から27%まで増えた。最大の投資先であるシンガポールの28%に迫る水準だ。

中国投資責任者のウィー・イーピン氏は同日の会見で、「（中国の現在の株安は）長期成長の過程の一次的な調整」と述べた。

今後も主力の金融だけでなく、消費者産業や農

業、ネット関連など幅広い分野に投資する。一方、日本市場については「他市場同様に投資機会を探る」（幹部）と述べるにとどめた。

15年3月期の新規投資は300億ドルに上り、大半がアジア向けだった。一方、投資の売却は190億ドルだった。

投資先の地域別内訳をみるとアジアが70%、北米・欧州が17%、オセアニアが9%だった。産業別では金融が28%と依然最大だが、前の期の30%から縮小した。消費者産業・不動産が15%と、同12%から増えた。